『負けた事に負けない自分』

神奈川県
思斉館滝澤道場
小学５年　　市　川　琉　伊

「負けない事は立派。負けた事に負けないのは、なお立派」この言葉は、館長先生から教わった言葉です。

ところがぼくは、その言葉の意味をしっかり分かっていなかったのだと思います。試合で負けた時に涙を流しながら、一人で考えます。なぜ負けたのか。どうすれば良かったのか。次の稽古でここを気にしながら練習しよう。そのようにして稽古をしているのですが、月日が経つと忘れている自分に気が付きました。「あぁ、これは負けた事に負けているなぁ。」と思いました。稽古中の先生が、「始めから10の力でやりなさい。やるとやらないでは結果はすごくちがう。」と教えてくれました。確かにぼくは、いつも油断をしてしまいます。

そんなある日、ぼくは試合で選手宣誓に決まっていたのに、油断していたため、学校で足を骨折してしまいました。一ヶ月間は、安静にしなければならない事になってしまいました。ですが、道場には行きました。練習は出来なくても、せめて見取り稽古はしよう。家では素振りをしようと思いました。でも素振りだけでは物足りず、つまらないので、「もう家では、練習しなくてもいいかなぁ。」と思っていました。しかし、道場に行って、みんなの稽古を見たら、一瞬で気持ちが最初の頃に戻りました。「早く、早く、剣道がやりたい。」強く強く思いました。剣道がやりたくてやりたくてしょうがなくて、「悔しい。」という思いが日に日に、ぼくの心の中でたまっていき、素振りをしていると安静にしなさいと言われているのに、足も同時に動いてしまい、母に止められる事もありました。どうしようもなく剣道がやりたい。だけど、やってはいけない。その辛さがぼくを苦しめる事もありました。こんな事になったのは、自分の油断のせいです。ぼくは、とても後悔しました。もう、こんな思いはしたくないと思いました。

このような事があったのでぼくは、剣道が自分にとってどのような存在なのか、考えるようになりました。剣道をやっていて、学びながら感じた事がたくさんあります。剣道は一人では出来ません。みんながいるから試合だって、練習だって出来ます。もし、道場に一人しか二人しかいなかったら、すぐに帰ります。大勢の人がいるから、きびしいながらも、楽しく剣道ができているのだと思います。

それなのに、初めて試合に出てから一回戦負けをした事がないのに、今年、全国大会の予選で油断をし、一回戦負けをしてしまいました。骨折をしたのも、油断をしたからです。剣道がこんなに好きなのに、どうして油断ばかりしてしまうのだろう。

剣道をやっていなかったら毎日がこんなに楽しい訳がありません。ぼくは剣道をやっていて本当に良かったと思います。なぜなら、分かりやすく、厳しく叱ってくれる先生方に会えているからです。また、支えてくれる家族や、応援してくれる友達にも出会えています。

ぼくは、油断してしまう心と戦いながら日々の稽古で先生方からもらった教えや、試合で負けた後の反省を忘れず、常に心がけて、一つ一つを確かな自分の力に変えていきたいと思います。そして、「負けた事に負けない自分。」を作りあげるために、剣道と向き合っていきます。